



シニアライフアドバイザー  
松本すみこ

南アジア代表、NPO法人シニアワークスRyoma 21理事長。シニアライフアドバイザー、キャリアコンサルタント。早稲田大学第一文学部卒業。団塊・シニア世代の動向研究とライフスタイル提案、市場分析などを行い、講演・執筆など多数。外国人と日本人が交流する日本語ネットカフェ「WA」主宰。著書に「地域デビュー指南術～再び輝く団塊シニア」（東京法令出版）など。

念大会を開催。中田さん自身は、昨年、長年の国際貢献に対して県知事賞、今年はアクティブシニアの社会貢献活動に対して与えられたプラチナギルド賞を受賞した。最後になって、中田さんは「私は、ALSAがあつて救われたんです」と語り始めた。活動を始めて2年後の1994年、がんで夫を亡くした。53歳だった。ガイドボランティアや英語教師として活動することで、辛さや寂しさを紛



中田さんが説明していると、ほかの観光客も取り囲んだ

らわせたことは間違いないだろう。さらには、それが中田さんの潜在力を開花させた。

## 外国人のおもてなし

今、多くのシニア世代が関心を示しているものに「外国人のおもてなし」がある。2020年東京五輪というシニアにはちょうどいい時間目標ができたことで、そこを何かのゴールに設定する意識が働く。とりわけ、「外国人のおもてなし」というキーワードは、1964年の東京五輪の華々しさと誇らしさを実際に知っているリタイア世代にとって、とても魅力的だ。東京五輪にひと役買うことは、もはや、あまり期待されない自分であっても、再び社会に貢献でき、自分自身も高揚できるチャンスだ



中田さんのガイドを勉強しようと、ガイド初心者も同行

「松本に来たおかげで、私の人生は開けました。これもお城が助けたおかげ。松本城さまさまです

と思えるのではないだろうか。

筆者も、シニア世代を対象に外国人に日本語や日本文化を教えるアドバイザーを募集しはじめたところ、予想以上の反響があった。外国人に囲碁を教えたいと英語を学び始めた80歳の男性や、日本語教師はリタイアしたが、もう一度教えてみたいという人など多彩な顔ぶれが応募してきた。

団塊世代前後は海外出張や海外赴任の経験が豊富で、語学もそれなりにできる人が多い。

ALSAも主な戦力はシニアだ。中田さんは「この活動は退職した男性たちの生きがいになってます」と話す。毎日来る人もいるそう

だ。今、現役で活躍中の最高齢は86歳の男性。傾斜のきついお城の階段を週1回、外国人を案内して降り降りする。よく食べ、趣味が多く、歌も上手で若々しい。こういうアクティブシニアは今、珍しくない。

英語のできる人がいいガイドと

ね」と穏やかな笑顔に戻った。

■ ALSA (NPO法人アルプス善意  
通訳協会) <http://www.npo-alsa.com/>

は限らないそう

だ。ただし、困ったこともある。ボランティア活動に会社の論理を持ち込む人がいる。会社で指導者だったからといって、ボランティアで通じるわけでもない。現役時代の習性が出てきてしまうの

だろう。そういうことさえわきまをえれば、意欲あるシニアは外国人のおもてなしに最適だ。すでに日本中に善意通訳組織 (SGG = Systematized Goodwill Guides) がある。東京五輪で提唱された活動で、困っている外国人旅行者を見かけた際に手助けするボランティア。日本政府観光協会にGG「善意通訳」として登録できる。基本的には個人ベースで行うが、GGが複数集まって組織を発足させるとSGGとなる。日本各地のSGGでシニア世代が活躍する時代が来た。